

「ふれあい給食」…神戸市須磨区との地域連携のはじまり



波田重熙学長の挨拶

平成24年10月16日(火)に開催された第6回「ふれあい給食」(注)は、神戸市須磨区高倉台にお住まいの参加者とNPO法人「輝(かがやき)たかくら台」の皆様、須磨区役所から3名の方においでいただき、ボランティア学生と教職員の総勢38名で賑やかに開催されました。

神戸女子大学は、平成18年に神戸市須磨区と地域協定を結び、まちづくりの推進、地域福祉の向上、地域の安全安心の推進を相互に連携して協力しています。「ふれあい給食」はその協定を結ぶ先駆けになった行事のひとつです。

「ふれあい給食」は参加の皆様の合唱ではじまります。この日も「輝たかくら台」理事長の玉森様は様のリードで「もみじ」や「里の秋」などの懐かしい歌が歌われました。

昼食タイムは、談笑しながら秋の味覚満載の給食を召しあがっていただきました。

昼食後のふれあい交流では手話部の手話コーラスを楽しまれました。最後は手話部の手ほどきで全員が「幸せ運べるように」と「犬のおまわりさん」を手話コーラスしました。

高倉台の皆様は「ふれあい給食」の開催を毎回楽しみにしておられます。

(注)「ふれあい給食」は、高倉台団地に住む65歳以上の独り暮らし高齢者(これに準ずる世帯含む)を対象とする給食会。「神戸女子大学プロジェクトコスモス」とNPO法人「輝たかくら台」の協同で、年間10回実施している。給食の配膳などをするボランティア学生、各クラブ、学生課、施設課、馬淵商事の協力で開催され、毎回30数名が参加される。学生や教職員が地域の高齢者との交流を図り、引きこもり予防や健康づくりに貢献できるようにNPO法人「輝たかくら台」の皆様と両輪で活動を行っている。



(右から)須磨区長 井上隆文氏 まちづくり課長 小野知哉氏
地域支援担当課長 吉村文秀氏のご挨拶



季節にちなんだ歌や懐かしい歌の合唱



全員で手話コーラス

V-net 神戸市立医療センター中央市民病院小児科病棟での交流

平成24年10月31日(水)に神戸女子短期大学のクラブ、V-net(注1)(顧問:食物栄養学科 今本美幸准教授)の学生が神戸市立医療センター中央市民病院の小児科病棟を訪れ、入院している子どもたちに手作りの行事食カード(注2)をプレゼントしました。

以前からV-netは小児科で病棟支援を行ってきました。その活動のひとつとして平成23年度より行事食カードを作成しています。

季節毎の行事に合わせて贈るカード。病院スタッフからご指導いただき、冬はクリスマス、春は節分、夏には暑中見舞いと、様々なカードを作成します。10月は「ハロウィン」カードを38枚作成しました。

当日は、仮装した9名の学生が賑やかなハロウィンメドレーにあわせて入室、子ども一人ひとりにカードと夕食を渡し、「いただきますの歌」を一緒に歌いました。

このような学生との交流は、入院生活をおくる子どもたちにとって楽しいひと時となっています。

(注1) V-netとは、阪神・淡路大震災を機に発足した管理栄養士・栄養士養成施設のボランティア・ネットワーク。現在は学校公式クラブとして様々な活動の幅を広げている。詳細は神戸女子短期大学ホームページの学園生活ページ内にあるクラブ活動をご覧ください。

(注2) 病院では、行事にあわせた料理に添えるクリーティングカードを行事食カードという。



(上)作成の様子(下)完成したカード



(左、中)病棟でのイベントの様子
子どもから素敵な笑顔をいただきました
(右)集合写真

第25回「月見の宴」



小雨の中、限られたスペースでの熱演



齊山美津子教授(右から3番目)と
「伝統学校ダンスグループ」のメンバー

平成24年9月29日(土)に神戸女子大学と「キャンパス・パーク(CP)連携」(注1)を結んでいる神戸市立須磨離宮公園で、第25回「月見の宴」に文学部教育学科の齊山 美津子教授とデンマーク体操部のOGと有志の部員の合計6名で特別に結成された「伝統学校ダンスグループ」が出演しました。当日は台風17号接近のため午後から小雨が降り始め中秋の名月は残念ながら見るできませんでした。

披露したのは、「青葉の笛」「荒城の月」の2曲で日本の学校のダンス教育に功績のあった戸倉ハル(注2)の創作ダンスです。齊山教授は、平家物語にちなんだ「青葉の笛」の美しさの中に、もののあわれを感じさせるメロディーに須磨の海岸の波を表現した振り付けをアレンジしました。特設ステージにはテントが立てられ、その下の限られたスペースでの演技となりましたが、傘をさしてみてくださった満員の客席から暖かい拍手が贈られました。

齊山教授の呼びかけに、「去年もこの舞台で踊った。もう一度参加したい」「先輩のステージをみて自分も踊りたい」といった理由で集まった学生は、夏休みのデンマーク体操部の合宿から練習を始め当日を迎えました。ブルーの衣装も自分たちで作りました。

学生たちはデンマーク体操の躍動する動きとは異なり、この作品でゆったりと流れるように美しく踊ることを学び、様々なジャンルのパフォーマンスが披露されるステージで自分たちの演技を沢山の方にみていただいたことに感謝するとともに、新たな良い体験ができました。

(注1) 神戸女子大学と神戸市立須磨離宮公園は、平成18年12月に協定を結び、隣接する地理的条件を生かし、本学の教職員と学生が離宮公園を教育・研究の場として使用を承認されている。

(注2) 戸倉ハル：(明治29年～昭和43年)ダンス、女子体育指導者として大正・昭和期に活躍した体育教育者。「ダンスは身体の作文」を持論に学校体育ダンスの普及に貢献した。東京女高師教員養成所研究科卒。高知県立師範学校教諭、東京府立第六高等女学校教諭を経て東京女子高等師範学校助教授、教授、お茶ノ水女子大学助教授、教授、日本女子体育大学教授を歴任。また、日本女子体育連盟を結成、会長を務めた。

